



福井県

中学校長会の窓

発行 福井県中学校長会
 編集 福井県中学校長会広報部
 印刷 宮田 写植 印刷
 福井市春日1丁目7-4
 TEL (0776)35-3865

第 145 号
 令和 5 年 2 月 15 日 発行

令和 4 年度

福井県中学校長研修会

令和 4 年 11 月 18 日 (金) 県自治会館

会長挨拶



福井県中学校長会

会長 坂田 雄一

立冬が過ぎ、日ごとに寒さも身にしみる頃となりました。まさに生徒にとっては学習の秋、教師にとつては研究・研さんの秋となり、各学校におかれましては、第八波とされるコロナ禍の中、感染対策を講じながら様々な教育活動に取り組まれていることと思います。

本日は、令和四年度福井県中学校長研修会を開催するにあたり、公務御多用の中、福井県教育委員会教育長豊北欽一様、義務教育課長三崎光昭様の御臨席

を賜り、厚く御礼申し上げます。また、本日御参会の校長先生方には、日ごろより、中学校長会の活動に深い御理解と御協力をいただき、おかげをもちまして、各取組もこれまで滞りなく進んでおります。この場をお借りしまして、校長先生方に感謝申し上げます。

さて、文部科学省により、二〇二〇年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿が示されていますが、ここでは、従来の日本型（福井型）学校教育の良さを受け継ぎつつ、新しい時代に沿う魅力ある学校づくりを進めていくことが求められています。校長先生方におかれましては、学校のトップリーダーとして、自らの学校の強みと弱みを整理し、目指す学校像をスクールプランに描き、長年培ってきた実践と経験に基づいて日々学校経営に取り組まれていることと思います。学校経営について論じられるとき、校長のリーダーシップという言葉が出てこないことはありません。また、新時

代のリーダーの在り方が問われていることは確かであり、私自身もそのことについて自問自答させられる場面がしばしばあります。思うに、令和の変革の時代に求められるリーダーとは、強い力で組織を統率したり変革したりするリーダーというよりは、目指す学校像に向け、必要な人材や組織を適切にマネジメントできるタイプのいわゆる教育的リーダーであり、このことは、「人を生かし人を育てる学校組織マネジメント」が重要であることを示唆しているともいえ

ます。言い換えれば、守るべきところは「不易」として堅守しながらも、変えるべきところは「流行」として迷わず変革する、いわゆる「しなやかさとたくましさ」が、これからの校長には必要なのではないでしょうか。校長のしなやかさとは、豊かな人間性に裏付けられた包容力と、どのような状況にあっても適切且つ柔軟に物事に当たることができる対応力であり、校長のたくましさとは、教育者としての確固たる信念に基づく判断力と、進むべき道をいち早く見通せる先見性だといわれます。諺に「柳の枝に雪折れなし」とありますが、令和の新時代においては、「しなやかでたくましい校長」でありたいものです。

本日の研修会は、岐阜聖徳学

園大学教授玉置崇先生をお招きし、「新時代の魅力ある学校づくり」様々な教育の動向を踏まえ「〜」という演題で御講演をいただきます。中学校において、多岐に渡る教育課題が山積する中、校長として、子供たちが通いたくなる魅力ある学校をどう創り上げるかについて今一度考える機会になれば幸いです。

学校は数あれど、課題のない学校はありません。校長という役職は、常に自問自答の繰り返しであり、「これでいいのか」「本当にできるのか」と、つい後ろ向きになってしまう、そういう不安や迷いは誰しもあるものです。本日の研修会が、今後の学校経営につながりますよう、また、日々学校づくりに取り組まれている校長先生方の背中を押す機会となりますよう御祈念申し上げます。本日は、よろしくお願いたします。





福井県教育委員会

教育長 豊北 欽一氏

本日は県内七三校の校長が一堂に会し、令和四年度福井県中学校長研修会が盛大に開催されますことをお祝い申し上げます。また皆様方には、日頃から福井の教育向上のため御尽力されていることに敬意を表すとともに、感謝申し上げます。

まず教育改革について申し上げます。今年度、四月から十月までの中学校の超過勤務状況を分析したところ、令和三年度末にゼロという目標をもって取り組んできたにも関わらず、月八〇時間超えの延べ教員は二七七名います。令和四年度は、時間外ゼロを現実としつつ、給特法条例に規定する月四五時間以内の教員の割合を増やすことを目標に取り組んできていますが、四五時間以内の中学校教員の割合は、四三・四％。小学校、高校は六割を超えています。昨年度よりは上回っていますが、まだ半分にも満たない状況です。延べ十人以上出し、ましてしまっている中学校もあります。こ

うした超過勤務の理由と対策を申し上げますので、管理職としてしっかりとマネジメントをお願いしたいと思います。

まず一点目は、一部教員への業務の偏りが見られますので、年度途中であっても校務分掌の柔軟な設定を実施してほしいと思います。二点目は、日常業務に一時的業務、例えば行事とか大会とか、授業研究会等が行われると、それを理由に超過勤務をしてしまう場合が多々あります。見直しをもつた業務遂行と、教員全体のチームとしての協力体制をお願いいたします。三

点目は、主に学校行事等については、安易にコロナ禍以前に戻らないように、行事等の精選、削減を進めて、あるいは生徒会等に委ねられるものは、教員は最小限の関わりでとどめていただきたいと思います。

部活動指導についても、部活動指導員や複数顧問体制、遅出勤務が生かされているでしょうか。勤務時間は校長のマネジメント力の最たるものであり、教員の意見をよく聞いて、業務の平準化や行事、業務等の削減をお願いいたします。

明治大学教授の諸富祥彦氏は、『教師の悩み』という著書の中で、「教師はここまでやれば目標が達成されたという実感がもたれにくい仕事。限界を超えて働き続けた結果、自身のエネルギーが枯渇してしまい、自身の家族を顧みることができなくなってしまうやすすい。」と言っています。また、生活の全体が仕事化していて、プライベートとの区切りが付けられない「教師脳」の状態になっているとも言っています。教師脳の解除のために、ぜひお勧めしたいのが遊びのノルマ化だと、その教授は言っています。

その調査結果をもとに、今後会議を開催する予定です。つきましては、働き方改革について、建設的な提案や意見がありましたら、教育長宛にメールでお寄せいただきたいと思っております。次にいじめの問題です。一月四日にいじめ問題対策連絡協議会を開催いたしました。約四分の三の中学生が、携帯やスマホを持っている事実があり、教員の目が行き届かない水面下でいじめが発生しており、情報モラル教育の重要性も指摘されています。今回お配りした資料を学校内の教員と共有して、しっかりといじめ対策に取り組んでいただきたいと思っております。一月九日に、知事と教育委員が話し合う総合教育会議に、関係者にも御参加いただいた。不登校対策について話し合いをもちました。県内の中学校では、令和二年度の六二五人から、令和三年度は七五二人と増えました。今後しっかりと対策を講じていく必要があります。資料を今後の不登校対策に生かしていただきたいと思えます。市町ごとにケース事例の積み重ねや共有をぜひお願いいたします。

次に、全国学力テストについて申し上げます。全国学力テストで全国トップクラスの成績が続く石川県で、今年度のテスト前に、多くの学校が授業時間や学校行事を削った異常な取組を行っていたというニュースが流れました。全国学力テストのことについて、序列化するのは好きではないのですが、全国平均よりも低い本県の一三ほどの学校は、自校の分析をしっかりと行い、授業を改善していただきたいと思っております。電子ドリル等を取り入れ始めています。電子ドリル等を取り入れますが、全国学力テストは問題文が長いので、県ではSASAの過去問を一つ一つ切り離して、子供たちに宿題として出しやすいようにしました。宿題や自宅学習として、タブレットも持ち帰らせて取り組んでいただきたいと思っております。学力診断テストもタブレットで子供たちに一問ずつ解かせるというのではないかと思います。また、知事からは自宅にタブレットを持ち帰らせ、活用するよう指示を受けています。最後に全国学調と働き方改革、いじめ問題等、自分の学校が今、どうい

福井県教育委員会 義務教育課長

三崎光昭氏

タブレットの活用についてお願いさせていただきます。先週、埼玉県の学校を視察させていただきました。埼玉県はGIGAスクール構想が発表されてから早々に導入の準備を進めており、視察した学校は、子供たちが扱いに慣れ、学校の中の回線も非常に強化され、スムーズに動いているというのが強い印象でした。ただ、埼玉県で使われていたアプリ等が、福井県内で取り組んでいるものとほとんど内容は同じで、授業での使い方というものは、本県と比べても特に驚くような目新しいものはございません。

福井県の先生方は、大変真面目な先生方が多くて、タブレットを活用することを御自身でハードルを上げていらっしゃる方がたくさんいるように思われます。今までのようにアナログの紙でもできる内容のことを、まずデジタルを使ってみることから始めるというような形でいいと思います。この活用に慣れてきた後には、大きな授業改善が進むと考えています。今後、本来の授業というのは対話的な学びとか、協働的な教育活動をいかに充実させていくことが重要になってくると考えます。コミュニケーション能力や、発表を行うまでの資質能力の育成、こういったことを中心に授業改善が進んでいくものと思われま



「新時代の魅力ある学校づくり」

～様々な教育の動向を踏まえて～

岐阜聖徳学園大学

教授 玉置 崇氏



御縁をいただいたこと、本当にうれしく思います。今から与えられた時間、精いっぱいお話をしたいと思います。私はほとんど中学校畑で、しかも校長を経験しましたから、自分の経験も踏まえてお話をしたいと思います。今、御紹介いただいたような経歴ですけど、今一番忙しいのが、国のICT教育活用アドバイザーで、あちこちの自治体で「端末を入れたのだけどうしたらいいか」ということで、関わらせていただいています。

それで、様々な教育のデータや状況というのは、本当に変わってきています。今、最新の言葉でいうと、令和の日本型学校教育です。令和の日本型学校教育を更に分析すると、「学習指導要領を着実に実施する」「GIGAスクール構想を推進する」「働き方改革を推進する」という三つになります。そして校長の立場でいうと、ミドルリーダーをどう育てていくかということをしごく課題にされているのではないのでしょうか。どの県においても大量退職、再任用希望者の減による教員不足等もあって、こういう課題を今、クリアにしていかなければいけないのですけど、特に私は今日、「校長として職員にこんなふうな話をするといいのではないですか。保護者にこうやって伝えるといいのではないですか」という視点でお話をさせていただきました。たいなと思います。

すから、校長としてこの三つを、職員や保護者にどう伝えていくか、そして、そこにミドルリーダーに実践を呼びかけていくというのが、私の一つのアイディアです。

そういう大前提でいくと、令和の日本型学校教育も、具体的にどんな子供が必要なのかということ。令和の日本型学校教育、見てもらうと、学習指導要領の実現とか、ICTの活用とがあります。個別最適な学びと協働的な学びというのが今、令和の日本型学校教育が出た後、勘違いした校長先生がいますので御紹介しておきます。「玉置先生、主体的・対話的で深い学びと言っていたのですけど、最近、文部科学省は個別最適な学びと協働的な学びと言いましたよね」「しかもGIGAスクール構想と言いたい出したじゃないですか。つまり、主体的・対話的で深い学びというのは、もう古くなって、今後は個別最適な学びと協働的な学びと、GIGAスクール構想を頑張れということではないのですか」と言われたのです。けれど、大間違いです。

なります。

私なりに言うところ、個別最適化された学びというのは、教師がつくっていきま。個別最適な学びは自分がつくっていきま。議事録を見ると、AIが入ってくるから、AIは、子供がやると、間違えたものはその子に合った問題を出します。これは個別最適化された学びができるぞという主張だったので、ところが、中教審の議事録の中で、やっぱり賢い人がいます。そんなことができるのか。AIが全国に入るのか。では、「誰が個別最適な学びをするのか」というと、先生です。でも無理でしょう。子供一人だつて、この子に最適な学びを提供していくのは無理ではないですか。二人、三人いたら、それぞれに合わせた個別最適な学びなんかつくれないでしょう。

と言いました。離れていくのです。離れていってもできる、自分で学べる力を付けてやるのが教師の役目でしょう。それがまさに、自ら学習を調整するということが、

だから今、「個別最適な学びは、自ら学習を振り返りながらつくっていく子供をつくりましょう」ということです。そして、その上には協働的な学びがものすごく大事で、人と比べていくのはとても大事です。指導の個別化とか、個別最適な学びは二つに分けてあって、指導の個別化と学習の個性化とあるのだけど、簡単に言うところ、指導の個別化は児童生徒が自らのデータを活用しながら、自らに合った学習を進めます。まさに主体的です。先生に言われてやるのではありません。学習の個性化もそうです。自分のやりたいことを、ICT等を使って、自ら課題を設定して、取り組んでいきます。つまり子供が主体的に学習に取り組んでいくことが大事だから、「主体的・対話的で深い学びの主体的」というのはものすごく大事なのです」と押さえてください。

ます。主体的の言葉の前に「自己の学習を振り返り」と書いてあります。振り返りが大事だということなのです。

簡単に言うと、私は「指示されてやる学習ではないよ」と言いまします。子供たちを主体的にしようと思つたら、「授業中、指示は大事だけど、指示ばかりしていたらいいませんよ」ということを、私は若い先生や、いろいろな先生に言っています。僕は年間、三〇校ぐらい、四月から回っていますが、そういう言い方をすると、結構、分かっていただけです。「主体的に子供を育ててください」と言うよりは、「指示ばかりしないで、授業中に一回でいいから自己選択をさせる場面をつくりましょう」と私は言います。自己選択するということは、主体的なことでしょう。どちらかでやるということでしょう。

こと？」と。私も中学校のときに、国語の優秀な先生がいて、授業を見に行つたとき、ある子供がいい発言をしたら拍手を送りました。普通なら「拍手をもらえてよかったね」で終わるけれども、その先生はまたひと味違いました。「今あなた拍手したよね」と褒めながら、「どうして拍手したの？」と、拍手の理由を聞くわけです。そうしたら、「だって、教科書にない言葉を使って言つたもん」と、子供が子供を評価していくわけです。これがつなぐということなんです。先生が評価するのはなく、子供につながせて、子供に子供の良さを知らせていくことです。「疑問に思つたね」というふうにして他者につないでいくことが、とても大事です。私は、鶴飼い型授業からの脱出と言っています。

さて、今度は深い学びにいきまします。深い学びは難しいのです。深い学びと簡単に言いますが、『見方・考え方』を働かせ」と言っています。深い学びにするためには、見方・考え方が働かないといけません。問いを見いだして解決したり、自分の考えを形成したりするなど、深い学びは、見方・考え方が授業中に働いているかどうかということなんです。見方・考え方を道具として使う授業がされているか、もっと言うと、文部科学省の文章では、見方・考え方が教科の本質だと言っています。本質的な中に教科の見方・考え方があって、見方・考え方が身に付くと社会で役に立つと言っています。学校の教育が社会で役に立つのは、子供たちの

見方・考え方を育てることだと言っています。

では、中学校の先生は、どうですか。「学習指導要領の目標を全部自分の教科はチェックしていますか」これは小学校ですが、ほとんど全部、学習指導要領の頭には見方・考え方が入っています。国語「言葉による見方・考え方を働かせ」

社会「社会的な見方・考え方を働かせ」つまり、厳しいことを言うことが働いていないと授業ではないということでしょう。算数も数学になったので、「数学的な見方・考え方を働かせ」理科も、見方・考え方が入っているでしょう。教科の専門の先生は、自分の教科の見方・考え方は何かを言えないと、本当はいけないわけです。ややもすると、そういうことをあまり思わずに授業を行つてしまつていいます。見方・考え方を育てれば、世の中の役に立つと言つていたり、目標の初めに見方・考え方が入つていたりしているのです、これに注目すべきだと思います。

だつて小学校の先生は、全部の教科の見方・考え方なんて厳密に分らないじゃないですか。だから、見方・考え方は、「今日の授業で一生覚えておく」とよい事柄」です。文部科学省がそばにいて僕が話しましたが、残念ながら、否定も肯定もされませんでした。でも、僕は間違つていないと思います。

さて、GIGAスクール構想です。一人一台端末が、こちらでも入ってきます。本当は深掘りしたいのですが、これは文部科学省のパンフレットで、GIGAスクール構想の最初の文章が、「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく」と書いてあります。つまり、端末を使えば、誰一人取り残さない教育が実現できるという大前提だということなんです。

GIGAスクール構想と保護者に言つても、若い先生に言つても分かりません。言い方を変えてください。GIGAスクール構想は三つで覚えましょう。「一人一台端末」「高速ネット回線」「クラウド」この三つで覚えていくことが大事です。保護者にもこう説明してください。

なぜ一人一台端末なのか。なぜ高速ネット回線なのか。なぜクラウドなのか。保護者に「なぜ一人一台端末なのか」と聞かれたら、校長としてどう答えますか。「教育委員会から届いたからしょうがないから」と、説明しますか。

私は、今までに調べてみて、なるほど一番手応えがあったのは、一人一台端末は道具だという説明です。端末を一五センチの定規だ

と思つてください。一五センチの定規が一本あるから、四人で使えと言いますか。絶対一人一本でしょう。筆箱の中に入れるでしょう。音楽室に行くときに、一五センチの定規だけ机の上に置いて行きましますか。行かないでしょう。端末もそうです。音楽室に行くときも、持つていきます。音楽室でいつ自分の歌を録音するか分からないからです。中学校だと委員会活動、端末を何も言わなくても持つていく学校、それが当たり前です。道具をわざわざ机の上に置いていかないでしょう。更に言うと、家に帰るとき、一五センチの定規だけ筆箱から出して帰りますか。全て持つて帰るでしょう。これが道具です。文部科学省はこれを目指しています。もちろん学校の事情があるのは分かりませんが、道具というのはそういうことです。常に持ち歩いて使います。一五センチの定規というイメージを持たせていただくといいかと思います。

高速ネット回線は、小中学校のデータは動画を使うので重たいです。端末の中にデータを入れたら、あとで困ります。だって、いつかはその端末を替えるからです。五年ぐらいたつたら、今の端末は当然古くなって、買わなければいけないでしょう。小学校だつたら六年間使うとして、当然データがたまりましますね。だから、クラウドです。進んでいる学校は、夏休みなどにクラウド上に学級新聞を作つておいて、家からアクセスしてみんなで作っています。共同学習ができるわけです。

私は、GIGAはこの三つでいいと思います。働き方改革になりませう。ぜひ校長先生、先生方に知らせてください。個別最適な学びができます。つながることがものすごく楽になります。この三つがキーワードです。

これは実際私が関わっている学校です。中学校の美術の先生です。この先生は、いい授業をやりたい。否定はしない。この先生は、今までコンピューターにいろいろな作品をカラーで子供に配信しています。一瞬にして配信しています。それまでこの先生は、紙で印刷していました。一学年三〇〇人ぐらいいます。カラー印刷してしまいました。校長先生が「やめてくれ。INK代がどれだけかかるか。いい授業をしたいのは分かるが、やめてくれ」と。だけど、校長が帰ってから、いい授業をやりたいので、こっそりと印刷しています。ところが、作って置いてピッと一瞬で配信できます。しかも、印刷の時間より短いです。この先生は、「こんなにいいものはありません。私が今まで苦労したことが一瞬にして終わるんです。これだけでも端末で子供に早く示せるんです。」あと、目の前でいい作品が見られます。入れ替えられるものは、入れ替えられます。こういう感覚になると、先生は、ばんばん使えます。

日思ったぐらいでいいんです。「心の中に浮かんだことを書いてください。」「難しいな。何々さんの考えよかった。もつと見てみたいな。」なんていうことでいいのです。これは小学校四年生だけど、こんなに振り返りを頑張っている学校です。「今年から振り返りをやります」と言って、最初の日の授業の振り返りで、わずか二か月、六月でこれほど書きます。子供は、自分の学習を振り返るのが楽しいのです。先生が何をしたかという、忙しいので線を引っ張ったり、時々花丸を打ったりしただけです。でも、子供は、自分で自分を振り返っています。これがメタ認知です。メタ認知をしていくことがとても楽しいのです。しかも、これは特定の子供だけではなく、私は全部見せてもらったところ、結構みんな書いています。

だから、「振り返り」って、僕は言いました。主体的な学びの前に示されているでしょう。振り返りは主体的でしょう。だから、ぜひ「振り返りを大事にしてください」と言いたいと思います。振り返っていくと、教えなくても子供たちは進んでいくというのが、私の理論です。

ある小学校で実践してもらいましたが、「まだ、もやもやしていることを書いてごらん」というのが一番効果的でした。つまり、まだもやもやしているということは、子供が次にやってみよう、自分が不十分なこと、振り返られるので、とてもいい表現になります。「できなかつたこと」「分からなかつたこと」よ

り、こういう言い方の方が絶対いいです。

さて、令和の大事なことの一つの働き方改革です。本当に苦しいです。時間をきちんと生み出したいし、当然、先生方に言う必要はありませんが、誰かが過労死してしまうことは、家族にとっても計り知れないことだし、学校や子供にとっても大きな損失だということ、当然分かって、そういうお話をされていると思います。詳しいデータを紹介しますが、疲れている教師は、いい授業はできないことは間違いありません。早めに帰っている教師の方が、ストレスも少ないし、次の授業も、自分の満足度もあるというデータも、横浜の方で出ています。

私たちは時間をかけていることで評価していたらいけないと思います。私は、実はグループウェアを世の中で最初に開発した人間です。つまり、校務の情報化、文部科学省は、校務支援システムと言っています。あれは私が作った言葉です。平成十年、今から何十年も前の教頭時代に、こんな学校はあり得ないのです。だって、あのころフアクシミリで喜んでいました。そのころ、企業本を読んでみたら、みんなコンピューターを手元に置いて、データのやり取りをしていました。そして、一元化していました。そのころ、世の中にそういうものがなかったの、僕は業者さんに頼んで一緒に三年間、職員と開発しました。それが製品になっていきます。名前は校務支援システムとなっていました。そのため

に、私は国の校務支援システムの座長をやらせていただきました。

あの当時、平成十年に、システムを徐々に業者と作らせてもらったときに、感動していました。出席簿が手元で入れられるようになった。その出席簿の結果が、知らない間に通知表に転送されるようにしました。そして、出席簿のその通知表のデータが、最後は指導要録に自動転送するようになりました。それを作りました。職員はめちゃくちゃ喜びました。「先生、これはめちゃくちゃ楽だ」と言って、製品開発をしました。そういうものが校務支援システムとして入っています。福井県にはまだ入っていないところもあると聞きましたので、ぜひ声を出していただいて、入れられると、時間短縮において、とてもいいと思います。

一つだけ、国の働き方改革で所持っている中学校のデータを見ると、時間がかかる業務は部活動、授業準備、学校行事、学年学級経営、成績処理なんです。時間延長しないでと言うのも手ですが、その学校の先生が一番時間がかかっているのは何かと言って、現職の教員だとかどうかと思つて話し合いをやってもらいました。

ある学校は、やはり授業準備に時間がかかるという話になったので、グループで、どうしたら授業準備が短くなるかという話し合いをしてもらいました。小学校で、若い教師はパターン化していませんでした。説明文はこうやって教えれば、物語文はこうやって

教えれば、いいというパターンが分かっていませんでした。その都度、教材が変わるたびにやっています。そういうことを先輩から聞いても、らつたら、ものすごく短くなりました。

中学校でよくあるのは、道徳をロールして、同じ道徳の題材を、学年全体を育てようということ、先生たちが学級を回っていき、授業準備を短くするためにどうしたらいいかということで、話し合われて、例もありません。当然、時間は短くすれればいいけど、そのために何か一つ話し合いをされてもいいのではということ。こんなことを話し合ってもらった例があつて、効果がありましたので、参考に最後に少し述べさせていた

きました。

お約束の時間ですので終わります。これは内田樹さんの言葉で、僕は大好きです。「機嫌よく仕事をしている人のそばにいと、自分も機嫌よく何かをしたくなる」校長は本当に厳しいです。あれもこれも、苦しいことはよく分かっています。だけど、やはり校長が、機嫌よくしていると、周りも機嫌よくなるというのは、哲学者が言われるとおりで、僕は思います。ぜひそんなふうにとやられたら、どうかと思います。



校長三昧



回想、そして感謝

成和中学校長 坂田雄一



「子供たちと多くの時間を共に過ごし、一緒に喜怒哀楽を感じた」と意気込んでスタートした教

員生活も、三八年が過ぎました。思えば、若さと情熱に任せて無我夢中で働き、生徒と向き合う中で、徐々にやりがいを見いだした二〇代。目指すべき教育の姿に拘り始め、家庭も顧みず、教職に没頭した三〇代。葛藤の連続だった教育行政十年は、貴重な経験となり、学校現場を俯瞰できるようになりました。管理職八年を含めた五〇代は、学校経営に自問自答し続けた日々でした。

感謝の意を込めて

光陽中学校長 真弓 淳



教員生活を振り返ると、やはり厳しかったときのことがまず思い出される。いきなり免

許外を担当するなどして始まった授業や、赴任した先々で必死に毎日作戦会議を行った生徒指導など、昨日のこのように蘇る。さらに部活動では、子供たちといっしょに汗を流し、未熟ながら精一杯指導した。どうしたら勝てるか、規律あるチームにできるかを考えながら毎日暗くなるまで行つた練習、そして大会で一喜一憂した経験が、その後の私を支えている。若いときは、周りのことはあまり考えずに、ただ我武者羅に進んだ。思えば、そのときどきの校長先生には、大変お世話になった。今、壁に掛けられた歴代の校長先生の写真を見ると、そのときの言葉が蘇る。威厳のある雰囲気を感じ出すと、自分はそのような存在でいられたのだろうか、と些か不安になる。それでも、なんとか最後まで仕事を全うすることができそうなのは、これまでの仲間、更に関係の皆様のおかげであると切に思う。感謝しながら、更にこれからの皆様の活躍を願うばかりである。

感謝

安居中学校長 高橋和代



教員人生を振り返ると、助けてもらった、支えてもらったと、感謝の気持ちでいっぱいになります。親身

になつて話してくださったこと、悩みや愚痴を聞いてもらったこと、一緒に感動して泣いてくれたこと、どれも私の人生そのものです。恩返しのようなことは力が足りずできませんでしたが、せめて学び続けることはやめなideいようと努力したつもりです。前向きに考え、挑戦する教師ではいられたかなあ。教師になった教員と再会すると、恥ずかしいけれどもともうれしくて、先生にしてみらつたことを学級の子にしているよ」と言われると口元が緩んでしまいます。思い返すと仕事のことを考えない日はありませんでした。そんな状況を許してくれた家族にも感謝！思いつき教師という仕事に没頭できた私は、本当に幸せ者です。地域や保護者の皆様、先生方との「縁」に支えられ、たくさん経験の場もいただきました。子供たちや仲間の姿に勇気もらい、感動がエネルギーとなりました。報恩謝徳。生まれ変わっても教師になりたい！

教員生活を振り返って

明倫中学校長 小林孝史



昭和六〇年に採用されて以来、三八年間が過ぎました。その後、長い年月が経ち多くの経験を積

んできたつもりですが、未だに日々の仕事の中で判断に迷うことがあつたり、今何を為すべきか考えたりすることが多い毎日です。管理職になつてからは、ちょうど学習指導要領が改訂されるタイミングであつたこともあり、柄にもなく授業研究に触れる機会をいただきました。恥ずかしながら、あらためて授業の奥深さを感じたり、学習指導要領改訂の社会的背景を理解したりすることがで

き、「教育観」を見直すきっかけとなりました。今後ますます社会が大きく変化していくことが予想されます。これからの先生たちには、子供たちがそんな社会を生き抜いていく力を身に付けられるよう御尽力いただければと思います。最後に、これまでお世話になつた全ての方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

教師冥利

森田中学校長 向当 誠隆



昨春、本校のあの教員から、初めて担任した教員が料亭の料理長をしているので、その店に是非行つてほしいと招待をうけたときのことで

料理の丁寧な説明や修業先のことを聞く中で、少しずつその教員の話になりました。少人数の田舎の学校なので引つ込み思案な私たちに少しでも人前で堂々と話ができる大人になつてほしいという願いから演劇をするようになったこと、コロナ禍でできなかった管理職合格祝いや今年同級生で必ずしたいということなど、恩師のことを楽しそうに話す姿を見て、これこそ教師冥利に尽きるのだとうれしくなり、その教員にも伝えました。昨今、教師という職業に対するマイナス面のニュースをよく耳にするようになり、「教師冥利をもつと多くの人に知ってほしいと強く願つていた矢先の心温まるひとときでした。校長最後の仕事として、(ささやかではあります)私の教え子からもらった感動や同僚と分かち合つた喜びなども含め、「教師冥利」を少しでも伝えていけたらと思います。

教員生活を振り返って

殿下小中学校長 小辻省一



私は、中学校から剣道を始め、いつか教師になつて剣道を教えたいと思うようになり、二校

目の森田中学校では、武道指導研究推進校の指定を受け、男女共修で剣道の授業をすることになりました。研究に長けた先生と毎日のように書物や資料を読み、ときには明け方近くに家に帰り、しばらく寝てすぐに出勤するといふ日もありました。研究発表会当日、授業の直前に二人の生徒が駆け寄つてきて、「先生、大丈夫や。僕らがちゃんとしてあげるって。」と言って、去つていきました。ちよつとやんちゃな二人でしたが、率先して課題に取り組み、意見を言い、困っている女子生徒を手助けするなど、大車輪の活躍でした。「若いときの苦労は買ってでもせよ」という言葉がありますが、このときの経験が後々の支えとなりました。最後の勤務校、殿下小中学校は、中学校が令和五年度に廃校になります。地域の方は淋しさを押し学校に尽くしてくださいました。仲間、生徒、地域、多くの方に支えられた三八年間、ありがとうございました。

校長としての日々

足羽中学校長 野路美智男



校長としての三年間、危機管理と情報発信の二つに力を入れてきました。危機管理は校長一人ではできないので、先生方に「さしすせ

そ」(最悪の状態を想定して、慎重にかつスピーディーに、筋道を立てて、誠実に組織で対応する)の大切さを常々話しました。振り返ってみますと、大ごとにならずにすんだ中、生徒や保護者に助けられたというのが正直なところだと思います。次に情報発信です。コロナ禍により、学校プログラムを毎日更新しました。特に授業の様子については、最初から最後まで授業を見させてもらい、写真と一緒にコメントを添えました。生徒たちは自分たちの授業を取りあげられることを楽しみにしてくれ、授業者である先生方も自分の授業の流れを振り返ることができ、授業改善に向けて思わぬ効果をもたらしてくれました。

愛する足羽中学校のために力を尽くした日々のことを糧に、これから先も一人の教員として再び挑戦していきたいと考えています。

「教師」という

職業に出会えて

栗中学校長 山本裕一



三七年間の教師生活を振り返ってみますと、本当にたくさんの方々に支えられてきました。新

卒二年目で中学三年生の担任になり、何も分らない私に優しく御指導くださった諸先輩方の教えは、今でも私の中で生き続けております。荒れた学校ではつらい思いもたくさんしましたがそのとき支え合った仲間とは、今でも交流があり、私を元気づけてくれます。これまで出会ったたくさんの子供たちからも、たくさんのお話を学ばせていただきました。教師である以前に、人としてどうあるべきかを、子供たちの姿

を通して勉強していったように思います。県・地区中教研数学部会との関わりも、私を大きく変化させてくださいました。校長としての最後の二年間、地区や県中教研の世話役をするのができたのも、私の教員人生の中では必然ではなかったかと思っております。この紙面をお借りして、お世話になった方々の方々に心から感謝申し上げます。教師」という素晴らしい職業に出会えて、私は本当に幸せでした。もし生まれ変わっても、また「教師」になり、子供たちの成長に寄り添っていきたく願って止みません。

ありがとうございました

鷹巣中学校長 福本敏巳



新採用は、母校の中学校でした。その当時は、十一年以上同じ学校に勤務している先生もたくさんいらっしゃって、私の場合も、中学校当時の担任の先生をはじめ、たくさんのお恩師と一緒に働くことになりました。私の中学生当時の様子を知っているだけに、みなさん口を揃えて、「お前が先生になるんか。」とびつくりされていたことを思い出します。

私は部活動の指導がしくてく教員を志しました。全中に出場し、勝ちたい勝ちたいと思ひ、土曜日も日曜日もなく、県外遠征に明け暮れていた人間でしたが、今では、業務改善という名の下の活動を制限している立場で、大変心苦しい限りです。

この三八年間、いわゆる荒れた学校で、日々もがいていたときも、保護者対応で行き詰まっていたときも、独りよがりになり部活動指導をして失敗したときも、管理職として足元が見えないときも、いつも多くの方々に助けられ、支え

ていただきました。今まで本当にありがとうございました。ありがとうございました。

教員生活を振り返って

三國中学校長 黒川智幸



昭和六〇年四月、教員生活のスタートは、生徒数一、五〇〇人超の鯖江市中央中学校でした。当時は

どこの中学校もそうでしたが、生徒指導が大変で、先輩の先生方から生徒指導や部活動について懇切丁寧に教えていただきました。二校目の丸岡中学校では、頭髮自由化運動や修学旅行別活動、ノーカバンデー、CAI教育など様々な先進的取組を経験させていただき、授業や生徒理解に関する研究の仕方や実践方法について一から学ぶことができました。

同じ目標に向かって、先輩後輩関係なく意見を戦わせ、夜遅くまで一緒に教材作りなどに取り組んだあの頃、働き方改革で今では考えられないことですが、子供たちのためにと団結し、試行錯誤を繰り返していた日々が、私の教員としての礎となりました。

振り返ってみると、これまで多くの先生方をはじめ、生徒、保護者、地域の方々にたいへんお世話になつていたとつくづく思います。充実した三八年間の教員生活を終えられることに心より感謝いたします。

「感謝」

丸岡中学校長 水持直幸



勝山中部中学校を皮切りに、小学校や中学校、金津高校や教育委員会など様々な

職種を経験させていただき、多くの出会いがあり、様々な体験ができました。今日まで頑張れたのは、本当に多くの方々、そして生徒たちのおかげと感謝しています。

出会った管理職の先生方には、授業や学校運営で厳しい先生もいました。今は、先見の明やチャレンジ精神、バイタリティーにあふれた取組だと理解できます。その先生方には及びませんが、コロナ禍の三年間、他校の校長先生方と連携をとり、一所懸命自分なりに置かれた場所で努力できたと思っております。

元気に登校し挨拶をしてくれる生徒、生き生きと授業に取り組み、学校行事に燃え、部活動に頑張る生徒のいる学校はブラックではありません。これから続く若い先生方が、是非「やりがい」を感じて頑張っていてほしいと願っています。

今は、「迷いながら ぶつかりながら 揺れながら 過ごした日々をいとしく思う 加藤千恵作」の心境です。今まで有難うございました。

心から感謝を込めて

勝山南部中学校長 山口きみ子



「校長先生、お電話です。」相手のお名前を聞いても思いあたらず、考えながら電話に出た。

「先生、私、〇〇です。」

フルネームを聞いた途端、小学生の彼女の顔がぱあっと蘇った。三〇数年ぶりである。熊出没のニュースを見ていたら、聞き覚えのある声がして、画面に映った校長が私だった。どうしてもお礼を言いたいことがあり電話をしたと言うのだ。小学四年生だった彼女を産休代で担

任した。毎日無我夢中だった。ある日、六年生の怖い(?)お姉ちゃんたちが、彼女はいるかと教室まで来た。そのとき私が、「うちの子に用があるなら、私に言え。」と追い返したそう。ごめん、全く記憶にないんだけど。その頃、ちよつぱりとんがっていた彼女は、それがすごくうれしかったのに、照れくさくてお礼が言えなかった。テレビで私を見たとき、あのお礼を今、言えと神様が言っていると思ったそうだ。

お礼に代えて

勝山中部中学校長 道関直哉



「創」の元の文字は「勑」で、鑄型に流し込んだ金属を刀で取り出す様子です。今年から教育目標を

「ふるさとを愛し、明日を創る生徒の育成」とします。これまでの良き伝統を大切に新しい学校を創っていきましよう。中学校長として赴任時の最初の講話です。「ふるさと」とは自身を育んでくれた地域や家族、仲間であり、「ふるさと」に誇りをもつ」とは自身自身に誇りをもつこと。明日を創る」とは未来は予測不能であることを前提に、幸せな社会の創り手として主体的に考え行動すること。このために探究的な学びは大切であり、探究的とは物事の良さを見つけ、仲間やその道のプロに教えを請ひ、その良さを更に伸ばす策を考え、行動すること。また探究には失敗の概念はなく、次の課題となることなど、解説を加えました。退職を迎えるにあたり、この言葉を自分自身への餞と戒めの言葉としてと

らえ、これからも身体の動く限り前進
していたいと考えます。在職中、関わり
をもっていただいた全ての皆様に心よ
りお礼を申し上げます。

ONE TEAMから OUR TEAMへ

鯖江中学校長 鈴木和欣



コロナ感染対
策・部活動地域
移行・不登校対
策・いじめ問題
への対応・一人
一台GIGA端

末の活用・学力向上対策・主体的対話
的で深い学びの推進・業務改善への取
組等現在、中学校の生徒・教職員を取
り巻く環境は課題や改革が山積してい
る。

そんな中でも生徒たちは授業や部活
動、学校行事に一生懸命取り組み、日々
成長した姿を見せてくれている。

先日もプレゼン甲子園と銘打って学
年代表八組が学年全員を前に堂々とし
たプレゼンを披露した。特別審査員の
前田鎌利氏はそんな生徒の姿を頼もし
い後輩たちと賛辞を送ってくれた。保
護者と教職員が一体となって生徒の健
全育成に取り組みしている証だと感じ
る。

特に教職員はチーム鯖中として一体
化するごとにどまらず、さらに各自
が自信をもってチーム鯖中に貢献でき
ていると自負できる存在となりつつあ
る。これはまさにラグビー日本代表が
目指しているONE TEAMからOUR
TEAMへのバージョンアップである。
私はこれからも微力ながらお手伝いを
していきたい。



覚悟と決意

万葉中学校長 尾形俊弘



新採用教頭とし
て初めて小学校に
赴任する際、校長
先生から助言をい
ただきました。「小
学校の先生は一日

中忙しいから、かわりに何でもしてあ
げてください。それから、将来校長に
なったら……、尾形さんに強制はし
ないけど……、私は退職願をいつで
も出せるようにしています。子供や先
生方に万一のことがあったら、私が責
任をとります。」他の校長先生もこう
おっしゃいました。「退職願は机の中
に忍ばせてある。あとは、日付と氏名を書
いて、印を押すだけだ。」

子供たちと教職員の命を預かる重責
を担う管理職として、覚悟と決意を新
たにした瞬間でした。

その後、小学校と中学校で校長を務
めています。公立小中学校、福井大学附
属中学校、県教育委員会義務教育課等、
学校および行政での貴重な経験を総動
員しながら、仲間・先生方・子供たち・
保護者・地域の方々と共に、精一杯の
毎日を過ごしています。

この原稿を書いているのは一二月
中旬。当時の覚悟と決意を常に忘れず、令
和五年三月三十一日まで全力で駆けぬけ
る所存です。

恵まれた環境でのスタート

武生第三中学校長 牧田善浩



新聞紙面で最初
の赴任地が小浜中
学校と知り、その
後辞令交付式に臨
み、同校の新採用
三名で教育委員会

と学校に挨拶に行った。右も左も分か
らない地での教員生活のスタートに不
安で一杯だったことを思いだす。その
様な中でも心のよりどころとなったの
が、雲浜寮での生活だった。平日は朝夕
の賄い付きで、休日は気の合う先生方
と外食を楽しんだ。その時間の中で、校
種の違う先生方と日頃の不安や教員と
してのあり方など、様々な話をするこ
とができ、日々のストレスをためるこ
となく前向きに教員生活を送ることが
できた。また、学校から望む松林や若狭
湾、そして久須夜ヶ岳が心を癒やして
くれた。今の先生方を見ていると日々
の業務に追われ心休まる語らいの時間
をもっていないように感じてならな
い。校長として少しでも働く環境が良
くなるよう業務改善や働き方改革に取
り組んできたが、思うように進んでい
ない。今後少しでも働く環境が改善さ
れ、先生方がゆとりをもって教育活動
に取り組むことができるよう、願うば
かりである。

完走

池田中学校長 平井浩一



一月、神戸マ
ラソンを完走しま
した。私の教員生
活をマラソンにた
とえて振り返って
みます。スタート

は南越中から勢いよく走り出しまし
た。新校舎完成の年で、素晴らしい環境
の中、若くて力のある先輩方に鍛えて
いただき、教員としての基礎を築きつ
つ楽しい日々を過ごすことができました
。三〇代になり、生まれ育った池田町
に異動しました。中学校・町教委・小
学校と中堅として責任は重くなり、い
ろいろと悩みつつ素直で明るい生徒た
ちとともに学級経営や部活動に力を注
ぎました。あたかもレースの中盤、上り

下りに苦勞しながらも一定のペースで
走り続けます。六年前、悲しくつらいで
きことがありました。管理職としての
責任を感じ退職まで考えましたが、周
りの方々の支えでなんとかもちこたえ
現在があります。三〇キロ過ぎに足が
止まり、リタイヤしそうになりながら
も治道の声援に背中を押されて気づく
とゴール直前という感じです。感謝し
かありません。感謝の気持ちを忘れず
現役世代の支援をしつつ第二の人生も
走り続けます。

変革期の学校

武生第一中学校長 松澤 紳



私たちが教員
になったころは、
学校の良き伝統
をいかに引き継
いでいくかが大
きな使命であつ
たと思います。最近、時代の流れが速
くなり、学校も新たな時代に対応する
力を育てる場としての使命も負うよう
に変化してきたと感じています。

学校の変革期の校長として考える視
点は、「多面的・長期的・根本的に物事
を考える」という三つの視点が大切と
感じています。目先のことだけで、物事
を考えるのではなく、しっかりと今後
の学校のあり方を見据えて判断するこ
とだと思えます。特に多面的では、学校
の立場だけでなく、児童生徒の立場、保
護者の立場、地域の立場等もよく考え、
それぞれに利益があることを追求すべ
きと考えます。

今後の学校は、子供たちの良さを伸
ばし多様性を生かし、新たな価値を生
み出せる創造性あふれる子供たちを育
てる場であってほしいと願っています。
今も昔と変わらぬものがあるとする
ば、人は人とのふれあいの中で成長す

るということだと思えます。

感謝

上中学校長 玉井茂博



昭和六〇年四
月、美浜中学校で
始まった教員生
活。いきなり二年
生担任、未経験の
剣道部顧問では
あつたが、がむしゃらに取り組み、教員
としての心構えを叩き込まれた四年間
でもあつた。そして、このときの学びや
縁は今も私の財産となつている。

その後教諭として一九年、派遣社会
教育主事等の行政職として七年。管理
職として八年の三八年間の教員生活を
今終えようとしている。この間、教員を
やめようと思ったこともなかったわけ
ではない。そんなとき、子供たちも含
め、多くの方々に支えていただいた。ま
た、二二年間を母校で勤務させていた
だくこともできた。そんなことをふり
かえって今思うのは只々「感謝」の一言
である。

職務上、教え子に会うことも少な
くはない。先日も「先生に数学を教えて
もらって、数学が好きになりました。」
の言葉を聞いた。お世辞とは思いつつ
も、そう言ってもらえることをありが
たく感じるとともに、そう言ってもら
えることで少しは世間のお役に立てた
かなと思う今日この頃である。

